



# あいち Junior Red Cross 青少年赤十字

令和4年度・5年度 研究委嘱校 名古屋市立稲西小学校

## 自ら「気づき、考え、実行する」児童の育成

～ ICT機器を効果的に活用して、自分の考えを広げたり深めたりする活動を重視して ～

### 共通の理念であることを再確認

学習指導要領 基本理念

青少年赤十字 態度目標

**生きる力**

*Zest for living*

自ら学び、考え、主体的に判断する能力

**自ら**

**気づき、考え、実行する**

成果：自分事として考える力（自分ならば…／自分にできることは…）の獲得

### 資質・能力の育成をめざし、日々の授業で実践を積み重ねる

#### ICT機器の活用

人と人 思考と思考 知識と経験

**つなげることができる**

#### ICT機器の活用

タブレット端末

- ・ 協働学習支援（共有アプリ）
- ・ カメラ機能（静止画・動画）
- ・ 検索機能（ウェブ・共有フォルダ）
- ・ ノート（デジタルらしい便利機能）
- ・ 投影機能（モニタ・スクリーンに）

デジタルカメラ  
実物投影機



**青少年赤十字の活動の意義**

（愛知県立岡崎高等学校校長）  
高井 俊直

日本の青少年赤十字は、前身となる少年赤十字が結成された一九二二年（大正十一年）以来、百余年の歴史を有しています。加盟校の児童生徒は、赤十字の精神に基づき、世界の平和と人類の福祉に貢献できるよう、いのちと健康を大切に、地域社会や世界のために奉仕し、世界の人びととの友好親善の精神を育成することを目的として、さまざまな活動を行っています。

さて、小学校では令和二年度に始まった新学習指導要領は、年次進行を経て今年度の高校三年生でもって完全実施となりました。その新学習指導要領では「学びに向かう力・人間性等の涵養」、「生きて働く知識・技能の習得」、「思考力・判断力・表現力等の育成」の三つの柱を掲げ、主体的・対話的で深い学びを通して「生きる力」を育んでいきます。また「総合的な学習（探究）」の時間では、「自ら課題を見つけ、考え、解決していく力」を養うことを目指しています。さらに「体験活動」や「道徳教育」の充実も図っています。

青少年赤十字がこれまで長きにわたり培ってきた「気づき、考え、実行する」力の育成、また自主自律の精神を養い、主体的に行動できる力を養う様々な指導方法、そして、「健康安全」、「奉仕」、「国際理解・親善」を柱とする実践活動は、まさに、新学習指導要領が唱える「生きる力」を育むことに大いに寄与するものであり、そこに活動の意義があると思います。

青少年赤十字のさまざまな活動を通して、児童生徒の皆さんが、人間尊重の生き方を学び、世界の平和のために貢献する力をつけるとともに、予測困難な未来を「生きる力」を育んでいくことを切に願っています。

## 各地区の活動状況

## 岡崎地区

五月十四日（火）、岡崎地区小中学校指導者協議会総会・研修会が開催され、本年度の役員や活動計画が承認されました。研修会では、日本赤十字社愛知県支部 救護・講習課長 菊池勇人様より「令和6年能登半島地震にかかる日本赤十字社の対応について」と題してご講演いただきました。

今年度の主な活動は次の通りです。

## ○地区トレセン

七月二十五日、二十六日（木・金）市内全ての小中学校から各一名の参加で実施します。今年度は小中合同、日帰り日程を2日間行う予定です。

## ○「トレセン文集」発行

これまで「JRC岡崎だより」として発行していた内容を文集に盛り込むとともに、トレセンに参加した児童生徒の感想や各校に戻って実践したことをまとめてトレセン文集として発行します。



HR内での交流の様子

## 刈谷・安城地区



地区トレセンの様子

刈谷・安城地区（知立・高浜・碧南・西尾含む）では、小学校四十一校、中学校二十校、特別支援学校一校の合計六十二校、児童生徒数にすると三万五千六百九十四名が加盟しています。六月十四日（金）には、刈谷・安城地区青少年赤十字指導者協議会総会を開催しました。

## ○刈谷・安城地区トレセン

今年度は、碧南市の勤労青少年水上スポーツセンターを会場とし、七月二十五日・二十六日（木・金）の二日間、小学生を対象に実施し、子どもたちに赤十字の重要性を啓発します。

## ○実践報告の作成

地区活動の活性化を図るため、年度末に各校の特色ある活動を冊子にまとめ、今後の活動の参考にします。

## 豊田地区

豊田地区は、豊田市とみよし市すべての小中特別支援学校百十七校が加盟しています。各学校は、次の三つの活動を進めています。

## ○地区トレセン

令和五年度は、八月十七日・十八日に、日本赤十字豊田看護大学において日帰りで二日間開催しました。「気づき、考え、実行する」の姿勢で取り組み、多くの学びを得る研修となりました。令和六年度は、日本赤十字豊田看護大学の学生とコラボする活動も予定しています。

## ○豊田市社会福祉大会

各加盟校の特色ある活動の写真を展示し、青少年赤十字活動を広く市民に紹介しています。

## ○お年玉募金活動

昨年度は、能登半島地震が起きたこととあり、二百六十六万四千八百二十円の募金を集めることができました。その内、百九十六万六千七百五十四円を能登半島

地震災害

義援金に、

六十九万

八千四百

八円を海

外の教育

支援とし

て役立て

ています。



お年玉募金贈呈式

## 高校部会

高校部会では、月に一度メンバー委員会が行われています。

昨年度、役員会や機関誌委員会の生徒たちは六月、十一月のメンバー連絡会に



高校メンバー委員会

向け、話し合いを重ねました。例えば、一人が「自校の活動を意見交換できる場を提供したい」と言えば、「その時期は一年生も多く来るだろうから工夫が必要だ」などと、様々な立場で多様な意見を出し合いながら、連絡会の企画運営を行うことができました。また、十一月に向けて日赤愛知災害管理センター棟を訪問し、学んだことをまとめて発表しました。

他に、毎年夏休みに行われるリーダーシップトレーニングセンターでは、ハイゼックスを使った炊き出し体験や、期間中に学んだことを基に各学校へ戻ってボランティア活動を企画するワークショップに力を入れて取り組みました。今年度から会場を移して活動を続けていきます。



## 名古屋地区

名古屋地区では、令和五年度地区トトレセンを八月九日、十日の二日間にわたり実施しました。

一日目は車椅子体験、高齢者疑似体験、妊婦体験等の福祉体験を行いました。二日目は、防災体験学習（避難所設営体験）を行いました。大規模災害が発生したことを想定し、HＲごとに、様々なニーズに対応できる居住スペースの間取りを考え、避難所を設営しました。



避難所設営体験の様子

前日の福祉体験での気付きを生かし、「ここは車椅子の人が通れるようにスペースをあげよう」「段ボールベッドの位置は高齢者が静かに休めるように奥にしよう」と誰もが過ごしやすい間取りを考えることができました。最後に、各居住スペースのよさや取り入れたいことを共有し、トトレセンを終えました。

本年度のトトレセンは、八月に日赤愛知災害管理センター棟を会場にして開催します。初めての試みとして、建物内にある免震構造、災害情報センターの見学等も取り入れたいと考えています。

これらの体験を通して「気付き、考え」たことを日常生活に取り入れ「実行する」ことができる児童生徒が育ってくれることを願っています。

## 尾張地区

六月十九日（水）に令和六年度尾張地区青少年赤十字加盟校総会並びに校長連絡会を春日公民館にて開催し、本年度の役員や事業計画が承認されました。会では、県支部より日本赤十字社の活動を紹介いただきました。今年度の主な活動は次の通りです。

## ○尾張地区トトレセン

期日 七月二十九日（月）

三十日（火）

会場 春日井市少年自然の家

加盟校の小学校六年生と中学校二年生の各二名が一泊二日で参加します。本年度は、小学校三十四校、中学校十三校が参加する予定です。

## ○発表交歓会並びに指導者研修会

期日 十二月二十四日（火）

会場 名古屋芸術大学アートスクエア  
加盟校の児童生徒と指導者が参加します。本年度は、江南市立草井小学校と清須市立春日小学校が代表して活動紹介を発表する予定です。

尾張地区は、現在、幼・保を含めて一九一校・園が加盟しています。今後加盟促進と共に学校生活の様々な場面で、青少年赤十字の目標である「気づき、考え、実行する」ことのできる児童生徒を育む活動を推進していきます。



尾張地区総会並びに校長連絡会

## 知多・海部地区



知多・海部トトレセンの様子

令和五年度は、知多・海部地区トトレセンを六年ぶりに開催しました。児童生徒百四十三名、役員・庶務・スタッフ三十三名、総勢百七十六名が一堂に会し、予定されたすべてのプログラムを滞りなく実施し、有意義な活動を行うことができました。

令和六年度の主な活動です。

## ○知多・海部地区青少年赤十字総会

期日 五月二十一日（火）

会場 東海市芸術劇場

## ○知多・海部地区トトレセン

期日 七月二十一日（日）

二十二日（月）

会場 美浜自然の家

## ○指導者講習会・児童生徒交歓会

期日 十二月二十五日（水）

会場 知多市勤労文化会館

知多・海部地区の加盟校は、知多が百十校、海部が五十六校、合計百六十六校です。各校それぞれで「気づき・考え・実行する」児童生徒を育成するようさまざまな活動に取り組んでいます。

## 東三河地区

東三河地区（豊橋・豊川・新城・設楽・田原）では、小学校四十四校、中学校十五校の合計五十九校が加盟しています。

それぞれの学校では特色のある活動や地域と連携した実践が日々行われています。児童会・生徒会が中心となつて進めるたてわり活動（異学年間の活動）、あいさつ運動や530運動（清掃活動）等、多種多様な活動が広がっています。また、地域とのかかわりを大切にした活動や、命の大切さを学ぶ講話。防災への意識を高める活動などにも積極的に取り組んでいます。

二月には、各校の日々の実践を「青少年赤十字活動実践集」にまとめ、東三河の加盟校に配付し、情報交換をするとともに、各校の思いや願いが込められた活動が他校へのよい刺激となることを願っています。

今後も「気づき・考え・実行する」ことのできる児童生徒を育む活動を推進していきます。



マスコットキャラクターを使って全校にあいさつの充実を呼びかけ



## いろいろな子と 交流できたらいいな

豊橋市立磯辺小学校

六年 深谷 葉奈

磯辺小学校では「むくろじ活動」と呼ばれるボランティア活動が盛んに行われています。活動には「レクリエーション活動」「奉仕活動」「ちびっこ先生」があります。

学校行事が縮小されて他学年と関わる機会が減っているので、他学年の子たちと気軽に楽しめるレクリエーション活動として、みんなが知っていて楽しめる「ドッジボール大会」を六年生の有志と企画しました。奉仕活動では、あまりそうじをしない場所を低学年の子たちと一緒にきれいにしています。ちびっこ先生は、上級生が下級生に折り紙や勉強を教えています。

これらの活動をを通して、磯辺小学校では、「気づき」「考え」「実行する」力を高めています。



5年生と6年生の対決

## 言葉の伝わり方

岡崎市立竜海中学校

三年 平内 杏奈

リーダーとは、みんなの前に立ち、まとめていく存在だと思っていました。



声かけの練習風景

しかし、トレセンに参加して考え方が変わりました。

印象に残っているトレーニングが、ルールを守らない人に対しての声のかけ方です。相手に納得してもらえない言葉を考え、実際に声をかけていきます。私は、今まで指示をするような口調で注意していました。しかし、強く言うよりも、より良い行動を提案したり、一緒に考えたりする方が、相手に納得してもらえることがわかりました。早速学校で、「静かにして」ではなく、「静かにしようね」と声かけを変えてみると、言い方を変えただけなのに、いつもとは違う反応が返ってきました。それは、「ありがとう」です。驚いたけれど、語尾を少し変えるだけで、相手の受け取り方が大きく変わることを実感しました。

トレセンに参加して、リーダーとは「相手の気持ちに寄り添うことができる人」だと気付くことができました。この経験を大切にして、これからの学校生活に生かしていきたいです。

## 能登半島地震募金活動を通して

安城市立安城西中学校

二年 齊藤 新大

一月一日、能登半島で大地震が発生しました。愛知県に住んでいる僕でも横揺れを感じるほどの大きな地震でした。ニュースを見ながら脳裏に浮かんだのは、帰省中の友達や部活動の顧問の先生の安否でした。

幸い、友達や顧問の先生は無事でした。しかし、能登地方の被害は甚大でした。真冬の厳しい寒さの中、多くの方が苦しい避難生活をしていることを知り、その方々のために、僕たちができることはないかと話し合い、安城西中学校生徒会は能登半島地震募金を実施しました。

この活動には多くの人が協力してくれて、一週間で約九万五千円もの募金が集まりました。毎日募金をしてくれる生徒がいたり、校長先生を始め、多くの先生方が募金をしてくださったりしました。募金を通して、周りのみんなも能登のことを思っていることを知りました。

この募金活動を通じて、人々思いやる気持ちのあたたかさを知りました。これらの生活の中でも、周りの人のことを常に思い、行動できる人になりたいです。



募金活動の様子

## リーダーシップトレセンで学んだこと

豊田市立足助中学校

三年 安藤 春希

トレセンでは、気づき、考え、実行することの大切さを学びました。特に印象に残ったことが二つあります。一つ目はワークショップです。自分の学校の改善点を見つけ、どう改善するかを考え、学校に持ち帰り実行するというものです。自分で改善点を考え、班で共有し、アドバイスをもらいました。共有することによって違った見方に気付き、新しい意見をもたうことができました。二つ目はコミュニケーション力です。私は知らない場所に一人で行くのが不安でした。でも班の子たちが声をかけてくれたので、話し合いなども仕切ってくれたので、意見をたくさん言うことができました。楽しい時間を過ごせました。知らない子でもコミュニケーションをとり、楽しい雰囲気を作り出せるような子がリーダーシップをとっていけるんだなと感じました。

私はトレセンに参加し、自分で考えを発表することや、友達の意見を聞き入れることでよりよいものが作れること、たくさんコミュニケーションをとることでみんなが楽しく活動できることを知りました。ここで学んだことを学校で広め充実した学校生活を送りたいです。



他校の生徒とワークショップ



文化祭での献血呼びかけを  
続けています。

名古屋学院 名古屋中学・高等学校

教諭 大藪 博康

本校では二〇一三年より文化祭(九月)において献血車に来てもらい、献血を行っています。

夏休み明けから、献血協力者を募る案内を出し、当日までに約五十名の献血協力者が集まるように本校の先生や生徒の保護者にアピールしていきます。

文化祭当日は、JRC部員の中学生は献血呼びかけ、高校生は友達をつれて献血してもらっています。文化祭当日、生徒たちは忙しくてできなかったとしても、「献血に協力してください」と呼びかけることによって、献血に対する意識づけがなされます。後日、「献血ルームで献血したよ」と話してくれる高校生三年生もいました。

毎年、六十名以上の協力者がいて血液があつまり、協力してくれた方々への感謝を感じています。この活動が続けることによって、本校生徒や一般の方々に献血の大切さを知ってもらい、献血してくれる人が増えていくことを願っています。現在、若い人の献血協力者の数が減っている状況です。このまま若い人の協力者が減少すれば、将来、輸血できず救われない命が出てくるかもしれないかもしれません。

もしかして自分や家族が病気になるかもしれないと、自分事として考え、これからは献血を呼びかけていきます。



文化祭での献血の様子

全国のJRCの仲間たちと  
気づき 考え 実行

名古屋市立八社小学校

教諭 神谷 陽子

五月三十一日～六月二日にかけて東京で青少年赤十字リーダートレーニング・セクター指導者養成講習会が行われました。



防災教育プログラムでのグループ学習の様子

全国のJRCの仲間たちとそれぞれの地域で行われている活動報告をし合ったり、グループワークを通して意見や考えを伝え合ったりすることで、改めて「気づき 考え 実行する」ことの大切さに気づくことができました。

また、防災教育プログラムでは、能登半島地震での支援活動報告をもとに講義が行われました。今、まさに大変な思いをされている被災者の方に対して自分たちに何ができるのかを考えさせられました。

国際理解・親善では、自国には無い文化に対して、すぐには受け入れ難いものであっても、まず他文化に対して理解しようとするこの大切さに気づかされました。

私はこの講習会で多くの気づきに出会い、たくさん考えさせられました。後は実行あるのみです。私の学んだ気づきを一人でも多くの人と共有し、みんなで作って、実行できるようにこれからも活動していこうと思います。

地域とともに  
気づき 考え 実行する

扶桑町立高雄小学校

教諭 吉村 友宏

「進んで、目を見て、明るくあいさつをする」高雄っ子を目指して、あいさつをするため、登校時間には、生活委員やボランティアの子が、あいさつ隊として門の付近に並び、元気にあいさつをしています。休み時間になると外で元気よく遊ぶ明るい子が多い学校です。

「お花がいっぱいの学校」本校の誇れるものです。四年生や環境委員を中心に花の世話を行っています。PTAの方の協力も得て、花の世話をしたいだいています。また、校庭にはたくさんの「くすのき」があります。地域の方は協力的で、落ち葉が多くなる時期には、落ち葉はき、草が伸びてくると除草をボランティアで手伝っていたでいます。

また、六年生を中心に、登校後のわずかな時間を利用して、花壇の草を抜く活動を自主的に行っています。JRC理念である

「気づき 考え 実行する」

が、あいさつでも学校美化においても実行されています。今後もこのような活動を広めていきたいです。



朝の除草作業

## あいさつ運動とJRC

あま市立甚目寺中学校

教諭 中道 秀斗

本校では、生徒会が運営する委員会活動の中に生活委員会があります。

生活委員会の定期活動として、朝のあいさつ運動を行っています。朝、学校の門や昇降口の前で挨拶をしています。すが、なかなか声が出せなかったり、挨拶を返さなかったりする生徒もいました。



あいさつ運動の様子

そのような状況の中、あいさつ運動を生活委員会の生徒だけに任せるのではなく、生徒会役員もあいさつ運動に参加したらどうだろうかという案が出ました。生徒会役員で話し合い、「やってみよう」ということになり、朝のあいさつ運動に生徒会役員が加わり、より積極的にあいさつ運動を行いました。すると、生活委員会の生徒も朝登校してくる生徒も、段々と大きな声で挨拶ができるようになってきました。

このように、これからは生徒の意見を大切にしながら、「気づき・考え・実行する」を合言葉に、JRCと関わっていきたいと思っています。

## 加盟校だより

## 北名古屋市立師勝西小学校

本校では、児童会や委員会が中心となり、よりよい学校生活を目指して、児童自身の考えを基に活動しています。

本校は住宅街にあり、児童数に対して運動場が狭く、怪我が発生しやすい状況にあります。そこで今年度は、休み時間の運動場の使い方について、保健委員会やスポーツ委員会、児童会が協力して意見を出し合って考えています。怪我防止のために学年や使用スペースを分けるのか、運動量確保のためにできるだけ多くの児童が使用できるようにするのか、どんなルールにしていくなかを児童自身で検討しています。

自分の意見で物事を進める経験から「気づき・考え・実行する」態度を育成できたらと考えています。

(加藤 遊)



委員会での意見交換

## 東海市立三ツ池小学校

本校では「子ども主体」の活動を大切にしています。

総務委員会では、「みんな楽しくみんな笑顔でみんな元気に」という目標を



児童会によるあいさつ運動

たて、特にあいさつ運動に力を入れることにしました。まず、「あいさつはなぜ必要か」全校児童に問いかけ、あいさつの意義を伝えました。また、あいさつの仕方にレベルを設定し、相手の名前を呼んで目を見て、自分から元気にするあいさつを「レベルMax」としました。そして、学級ごとの「学級あいさつフリー」や児童会役員による「外国語のあいさつ」や「方言あいさつ」の企画を考え、実施しました。人と人をつなぐコミュニケーションのひとつであるあいさつの大切さに「気づき」、進んであいさつできる工夫を「考え」、学校・家庭・地域でレベルMaxのあいさつを目指し「実行する」取組は、「子ども主体」の活動です。このような活動をどの委員会でも行っています。これからも児童の活動を支えていきたいと思っています。

(中道 みゆき)

## 豊橋市立本郷中学校

本校では、SDGsを推進したいという生徒の思いから、二年がかりで、本校として推進する十七の目標を作成しました。更に、重点的に実施していく五つの目標を定めた「HON5SDGs」を決めました。これをもとに、各委員会の企画や文化祭の出し物など、さまざまな活動を展開しています。また、校区を流れる近隣の梅田川、校区内の公園、通学路での清掃活動を十年にわたって実施しています。ボランティアを全校生徒から募集し、毎回百人以上の参加者が集まり、積極的に活動を行っています。

また、コロナ禍で交流が少なくなった小学校との関わりを増やしたいという生徒の願いを生かし、小学校との意見交流会を行いました。各校の現状や課題について話し合い、挨拶を充実させていきたいという意見や、SDGsを小中三校で推進していきたいといった意見が出ました。そこで、小中合同の挨拶運動を実施するとともに、生徒会や児童会が中心となつて各校でSDGsの実践を進めています。

このよう

に、青少年赤十字が掲げる「気づき、考え、実行する」生徒の育成を目ざし、教育活動を継続していきます。

(荻野 達成)



梅田川での清掃活動

## 岡崎市立六ツ美中部小学校

菜の花は、学区の六ツ美地区において生活に根差した花でした。その菜の花を通して、「なのはなプロジェクト」に、令和四年度から取り組んでいます。菜種の収穫など、全校で取り組む活動もありますが、その中で四年生は、総合的な学習の時間に位置付け、年間を通して「なのはなプロジェクト」に取り組んできました。

令和五年度の主な活動は、菜種の収穫、菜種油搾取の体験活動、搾取した菜種油とサラダ油の違いを体感する「ポテトの会」、次年度の菜の花を育てるための種まき等です。特に令和五年度は、学区内に畑を借りることができ、そこを菜の花畑にしようと、学区の有志の方の協力を得て活動を進めることができました。

児童の思いから、この学習を次につなげようと、四年生が学習内容をまとめ、三年生に発表する会も行いました。菜の花畑は、この春、きれいに花を咲かせました。今年度は、現四年生がこれを受け継ぎ、「なのはなプロジェクト」を進めています。

(佐野 和彦)



菜種油搾取の体験活動



## 刈谷市立雁が音中学校



募金活動に集まった有志

本校では、教職員が支え、生徒が創る学校を目指しています。その原動力となっているのが、生徒の想いです。令和六年の三学期始業式、月例の生徒会役員会がありました。そこに突如、現れた一人の生徒から提案がありました。「生徒会のみなさん、能登半島地震について、連日ニュースが流れています。コンビニなどに募金箱が置いてあります。私たちがそこまでコンビニには行きません。だから、募金をしたい人が、その想いを形にできるように学校で募金活動をしたいです。」

その想いに共感した生徒会役員会は、手作りの募金箱を持ち、毎朝昇降口に立つことにしました。「募金活動やっています」「ありがとうございます」「明日もありますので、お願いします。」すると、家族全員を代表して募金をしたり、同い年の受験生を気遣う手紙を添え、今年も買ったお年玉を募金したりする生徒たちがいました。一人の生徒の想いから始まった募金活動は、四十名を超える有志に囲まれて幕を閉じました。

「雁中にはこれほど多くの優しい心の持ち主がいたってことです。」と語る発案者の表情は晴れやかでした。

(菊地 惇也)

## 豊田市立稲武小学校

本校は小規模校のため、より多くの子と関わるができるよう、異学年交流に力を入れています。「なかよし班」という縦割り班で掃除を行ったり、六年生が中心となって計画をする「なかよし班遊び」を行ったり、今月の歌を発表する音楽集会や、合同授業を行っています。

五年生は、林間学校のキャンプファイヤーで行うゲームを一年生と楽しもうと、交流会を計画しました。「猛獣狩り」では、一年生がベアを作ることができるよう五年生が声をかけたり、「マイムマイム」では、複雑な足のステップを一年生ができるように、ゆっくり教えたりする姿がありました。一年生は五年生の話を真剣に聞いて、楽しもうとしていました。一・五年生全員が笑顔いっぱい交流会にすることができました。

(西野 萌花)



マイムマイムを楽しむ児童

## 愛知県立瀬戸西高等学校



クリーンキャンペーンの様子

本校では生徒会執行部を主体として、青少年赤十字活動を実践しています。特に昨年度力を入れて取り組ん

だことが、冬に行われるクリーンキャンペーンです。これまでは、校内の生徒たちとその保護者で通学路を清掃する程度でとどまっていた。しかし、夏休みにリーダーシップトレーニングセンター(LTC)へ参加した生徒が発起人となり、より多くの生徒が参加

できるよう、募集の仕方を工夫し、部活動の協力を得るなどのアイデアを出し合いました。さらに、コロナ禍前に交流のあったみどりのまち病院と交流できる活動にできないかと提案し、当日は職員の皆さんと交流しながら、清掃活動を行うことができました。

現在行っている活動は、これ以外に募金の呼びかけやボランティアへの参加にとどまっています。今後は夏休みに行われるLTCへの参加を通して、現在の活動をより活発にし、より多くの生徒が参加できるよう、生徒会執行部を中心に取り組んでいきたいと考えています。

(今井 伸哉)

## 名古屋市新郊中学校

「名古屋地区のトレセンで体験したことを学校中の生徒に広めたいです。」トレセンに参加し、福祉体験をした生徒四名が、JRC部顧問に提案に来ました。

そこで、その四名が企画者となって、JRC部内で福祉体験をする機会を設けました。そして、JRC部でこの体験を全校生徒向けに企画するかを話し合いました。

全校に働きかけるということで部員の中には、できるか不安に思う者がいました。そんな時、「一人ではできないことだけど、このメンバーでならやれると思う。やってみよう！」と、一人の部員が発言し、それを受けて部として企画運営することに決まりました。

準備期間二か月。体験方法や説明文をより分かりやすく工夫し、参加者が「参加してよかった」と感じられるよう試行錯誤しました。その中で部員たちは、「気づき」「考え」「実行する」というJRCの態度目標を常に意識して活動しました。

体験会当日は、百五十名もの生徒が参加し、企画は無事終了しました。福祉体験を企画運営できたことはもちろんのこと、それを実現するために考えた部員たちのすばらしい姿が見られました。顧問として、この姿を後輩部員たちに伝え、継承していく努力をしていきたいと思っています。

(笹野 祐加)



福祉体験をする生徒たち





聞き合いタイム



SST & SGE



体験活動



ICT活用

**ほかほかする学級**  
温かな人間関係の醸成

**わくわくする授業**  
学びに向かう仕掛け

**人とのかかわりの中で、気づき、考え、よりよく生きる**  
～心も元気!体も元気!笑顔あふれる汐田っ子の育成～

**いきいきする環境**  
学びを深め・広げる実践の場



汐田MNK



汐田学習デー



地域とのかかわり



外遊び・ペア遊び



児童会活動

## 支部通信

四月二十三日「ウイールあいち」で、令和六年度愛知県青少年赤十字指導者協議会役員会・総会・研究推進校実践発表会が開かれました。

総会では、議事に先立って表彰式が行われ、五十八名の先生方と百四十一の学校と園が表彰されました。

総会に引き続いて、令和四・五年度の研究推進校であった「名古屋市立稲西小学校」と「豊橋市立汐田小学校」が実践発表を行いました。

日本赤十字社愛知県支部では、青少年赤十字活動のさらなる充実・推進と未加盟校への活動普及を目的に、研究推進校を設置しています。研究は二か年の委嘱期間で実施され、研究成果の発表を行います。参加された先生方は、両校の充実した研究実践に熱心に聞き入っていました。両校の研究要項を全加盟校に配付させていただきました。



### 令和六年度主な事業計画

- \* 役員会・総会・実践発表会 4月23日 (会場 ウイールあいち)
- \* 第一回トレセン検討会 5月17日 (会場 愛知県支部)
- \* 高校指導者研究会・メンバー連絡会 6月1日 (会場 愛知県支部)
- \* 高校トレセン 7月15日・27日・28日

(会場 愛知県美浜自然の家ほか)  
\* 小中トレセン 8月7日・8日

(会場 愛知県美浜自然の家)  
\* 指導者講習会 8月21日・22日

(会場 愛知県美浜自然の家)  
\* 救急法講習会 8月9日・26日

(会場 愛知県支部)  
\* 第二回トレセン検討会 9月6日

(会場 愛知県支部)  
\* 指導者協議会講演会 1月17日

(会場 名古屋公会堂)  
\* 指導者講習会実践発表会 1月24日

(会場 愛知県支部)  
\* 高校活動発表会 2月1日

(会場 愛知県支部)  
\* 令和五・六年度研究推進委嘱校

・半田市立雁宿小学校

・岡崎市立六ツ美中部小学校

・令和六・七年度研究推進委嘱校

・刈谷市立朝日小学校

・豊田市立畝部小学校

加盟状況 (令和六年三月三十一日現在)	
○幼稚園・保育園	五十六園
○小学校	六百三十六校
○中学校	二百六十八校
○高等学校	百十八校
○特別支援学校	十四校
《加盟校合計》	一、〇九二校・園
《メンバー総数》	四二九、〇三二名

発行 令和六年七月一日  
発行者 愛知県青少年赤十字指導者協議会  
事務局 日本赤十字社愛知県支部  
〒四六一一八五六

名古屋市中区白壁一五〇  
TEL 〇五二一九七一・五九九  
FAX 〇五二一九七一・五九〇